

音モダチ・プロジェクト 被災地支援活動 vol.1 2011/4/10-13

震災から1ヶ月後の4/10から国立音楽院のご協力のもと、救援物資と電子ピアノ、ギターを持って代表の池田が被災地を訪問いたしました。（以下お洒落倶楽部ブログより抜粋）



名取の町の様子

仙台の南の名取市の避難所を訪問した。物資の提供と共に被災者の方々の近くで流しの歌を歌った。皆さんのリクエストにより誰か故郷を想わざる、贈る言葉、影を慕いて、星影のワルツ、津軽海峡冬景色、など歌った。中でお一人コブクロの蕾をリクエストされたが出来なかった。この方の息子さんは今回津波の犠牲になったそうで、代わりに自作の「終わりなき花の命」を息子さんのために歌わせていただいた。涙を流して聞いてくれていたけど顔を見ることが出来なかった。明日茶毘にするとのことだ。その後に津波の爪痕をみた。子供達にルミちゃんが作ってくれたクッキーをあげたらとても喜んでくれた。さっき歌ってた人でしょう？と覚えていて、今度は一緒に歌う約束をして別れた

仙台の卒業生の実家を訪ね全員の無事を確認しました。震度6強を二度も受けて立ち上がりました。良かったです。家のピアノで演奏と歌を贈りました。とても喜んでいただけて良かったです。その後支援物資を届けにもう一軒訪ねました。怪我をしていましたがお元気でした。

初日、仙台の中心地のホテルに宿を取った。ガスが止まっているためお湯と暖房が使えない。夜は冷え込んだが電気ポットで湯を沸かし湯たんぽで暖をとって休んだ。そんな状況のせめてもの慰みにという意味なのだろうか？大きなマッサージチェアが部屋に有った。もちろん堪能した。風呂に入れないので湯を流しに溜めタオルで全身を拭いた。結構さっぱりした。



卒業生とご家族のみなさまと。

11日。仙台港、大きな貨物船が津波で流されトレーラーが数え切れないほど破壊されていた。信じられない光景だった。塩釜の避難所を慰問して子供達に手作りクッキーとお菓子と靴下。お年寄りに沢山の歌のプレゼントをする事が出来た。最後はみんなで上を向いて歩こうを合唱した。避難所を取り仕切る町の職員さんが涙ながらに感謝の言葉をくださった。来れて本当に良かった。

2日目、一関の宿。ここは暖房もお風呂も大丈夫だが地震が五分おきに有った。テレビでは紹介してくれていないようだ。今日は暖かい部屋で寝られるがのべつまくなしの地震に襲われた。縦揺れはあまり怖くないって思った。圧倒的に縦揺れだった。





陸前高田、大船渡は想像を絶する被害状況だ。そんな中大船渡の避難所ではミニコンサートをさせてもらった。呆然とするひともし涙を流す人もいる中子供達の笑顔が救いだっただ。一人一人にお菓子を手渡して頭を撫でて再会を誓った。港には何年も前に乗船し寄港したことがあるふじ丸が支援活動に来ていた。これもまた何かの縁であろうか？

本当に辛かった。陸前高田市には過去がない。ほかの町は少しは以前があるのにこの町にはそれすら許されていなかった。子供達から笑顔は消え本当に必要なもの以外は欲しがらないようにするという指示がそうさせていた。悲しい兎に角辛かった。この子達に普通に笑顔が戻るまで続けなければならない。



気仙沼は港と沿岸部がひどかった。その後三陸町に入ったが陸前高田同様すべてが無くなっていた。人間の営み、尊厳、歴史を一瞬にして奪ってしまうこの災害を見て核兵器とはこれのことだと強く感じた。これからいったいどれくらいの月日が有ればよいのかまったく検討もつかない。長い闘いの始まりだ。



避難所となっていた体育館で。
おひとりおひとりの為に歌わせて頂きました。



音楽は愛だ。

今回の訪問はとても大きな意味があった。歌はどんな慰めの言葉や励ましにも無い価値があった。銀色の道では手拍子が起こった。何度も歌った。あれから1ヶ月。避難所の人達はまだ海が見られないそうだ。本当に大きな大きな傷を負った。みんな一生懸命だった。みんな優しくかった。みんな素晴らしかった。みんな泣きたかった。そしてみんな笑いたかった。

またお会いしましょう。それまでどうかお元気でいてください。